

まだまだ暑い日が続いています。夏の疲れが出てくる頃ですが、園では運動会などの行事が目白押し！
元気に過ごせるよう、毎日の体調の変化にご注意ください。
9月9日は「救急の日」です。この機会にケガ等を防ぐために気を付けることを振り返ってみましょう。

交通ルールを守って、 事故を防ぎましょう

1～14 歳の子どもの死亡事故で最も多いのは交通事故です。小さいころから交通マナーを伝えることが、子どもの命を守ります。

こどもチェック ①

駐車場も注意

事故は駐車場でも起こります。道路や駐車場など、車が多い場所では、必ず手をつないで歩く習慣をつけましょう。



こどもチェック ②

自転車の死亡事故も多い

自転車に乗っているときの事故も増えています。スピードを出さない、曲がり角では停止するなど、自転車のルールもしっかり伝えましょう。

交通事故を防ぐために心がけたいこと

① 普段から交通ルールを 教えましょう

朝夕の送り迎えは、交通ルールを学ぶ大切な時間。横断歩道を渡ること、歩道から飛び出さないこと、信号の意味などを伝えましょう。



② 大人もルールを守りましょう

急いでいると、信号を無視したり、道路を横切ったりしたくなりますが、子どもは見ています。みんなで交通ルールを守りましょう。



③ 事故を招かない工夫をプラス！

大人が、子どもの事故を防ぐことも大切です。

- 道路の反対側から子どもを呼ばない
- 後部座席はチャイルドロック
- 道路で遊ばせない
- チャイルドシートやシートベルトを正しく使うなど、できることはたくさんあります。



予防接種を受けましょう

予防接種は、自分が病気にかかるのを防ぐだけでなく、人に感染させてしまう事で園や社会全体に病気がまん延するのを防ぎます。

また、病気にかかったとしても、重症化を防げる場合もあります。

いつ受ければいいのか？

母親からもらった免疫が薄れてくる時期や、その病気にかかりやすい年齢、病気が重症化しやすい年齢などに応じて受ける必要があります。病気ごとに定められた期間内に、接種することが大切です。

異なるワクチンの接種の間隔が2020年10月から変更になりました。体調の変化などで予定どおりに進まないときや接種スケジュールがわからないときは、かかりつけ医などに相談しましょう。

気をつけたい副反応

副反応の多くは、接種部分のはれや発熱ですが、まれに命にかかわるものや、重い後遺症を引き起こすものもあります。けいれんや頭痛、おう吐などの症状が見られたら、早急に医療機関を受診する必要があります。

注意

- ・けいれんを起こす
- ・おう吐
- ・頭痛

予防接種を受けた日は

接種後30分は医療機関で様子を見るようにします。接種した部分の異常なはれや急な発熱、発しんなどがなければ、特に安静にしている必要はありませんが、過度な運動は避け、室内遊びなどで過ごしましょう。



体調不良時のおねがい

アプリ・電話にて病欠連絡をする際には、以下のことをお伝えください。

①どのような症状があるのか

体温・嘔吐・下痢・咳・鼻水・目や耳の症状など

②いつから症状があるのか

③病院受診や検査の有無

- ・37.5℃以上の発熱がある時は登園出来ません。発熱・嘔吐・下痢などの症状が改善されてから24時間以上経過後にご登園ください。
- ・同居家族が感染症に罹患した場合には、園へご連絡いただきますようお願い申し上げます。



よく食べ・よく遊び・よく寝るを心掛け、生活リズムを整えて、

夏の疲れをリセットして元気に秋を迎えましょう！

気になる事がございましたら、いつでもお声掛けください。

